龍蔵寺 寺報（令和五年）夏号　お盆とお施餓鬼のご案内

ご本尊様 修復からお戻り

埼玉県ならびに加須市の文化財修理の助成、檀信徒からのご寄進をいただき、仏師の工房に入院されていたご本尊様がご帰還されました。印を結んだ手の指の欠損、光背のずれや欠損の修復が当初の目的でしたが、造立当初、鎌倉期のお姿に戻すという文化財修復の観点から、江戸時代に後補として塗り重ねられた金箔や漆が取り除かれ、お顔立ちも入院前よりシャープになったように思います。上の写真は修復後ですが、ほぼ同じアングルの写真が昨年の夏号に載っていますので是非比べてみてください。

龍蔵寺の阿弥陀様は親鸞聖人の三十三回忌にあたる一二九三年に造立されました。龍蔵寺の創建が一三五五年ですので、その六二年前になります。龍蔵寺よりも御像の方が古いことになります。前号で書いたように、舞木氏が支援者として大きく関わっていたことが今回の修復で分かりましたが、その後どのような経緯で龍蔵寺に辿り着いたかは、よく分かっていません。

今回、修復の監修を頂いた先生方に、報告会の開催お願いしました。歴史や御像に関心ある方は奮ってご参加ください。

日時：令和五年十月十四日（土）　十四時～十六時

会場：龍蔵寺倶会堂

講師：林宏一先生（岩槻人形博物館元館長）

岩佐光晴先生（成城大学教授）

※阿弥陀如来像の歴史的な位置づけや修復の方法、発見などについてお話頂きます。

お盆とお施餓鬼のご案内

令和五年のお盆の日程は次の通りです。

七月二日（日）新盆法要・盆施餓鬼木札開眼法要（十四時）
※新盆のご家族対象

八月六日（日）盆入り法要
午前七時～
お念仏の会と併せて執り行います。
※どなたでも参加できます。

八月一日（火）～九月十五日（金）
施餓鬼供養の木札受付

八月十三日は午前六時～午後五時
他の日は午前九時～午後四時

八月十三日（日）～十六日（水）
お盆期間

九月十七日（日）施餓鬼法要（十四時）
※参列歓迎　記念の散華をお配りしています。

切子灯籠　迎え火として本堂前にお飾りします。切子灯籠はアジアの仏教国で見られる伝統的な意匠です。

境内の整備計画とご報告

檀信徒の皆さまのお声をお聞きし、境内の改善に取り組んでいます。施主としてご寄進されたい方は寺務所までお申し出ください。長寿の報恩、感謝、回忌法要の記念に。それぞれに記銘し、三〇万円以上のご寄進は本堂の木札にもお名前を記し、末永く顕彰させていただきます。

登高座

檀信徒の御寄進により、本堂に登高座を新調できました。　登高座は本堂須弥壇の前に置く、読経や礼拝を行うためのスペースで、一段高い高座状になっていることから、登高座と称しています。昭和初期にも登高座の寄進があったとの記録があり、およそ百年ぶりの復活となります。

観経曼陀羅（當麻曼荼羅）

檀信徒の御寄進により、昨年夏の寺報で紹介した大掛軸の曼荼羅を修復し、九月の施餓鬼会で掛けさせて頂きました。観経曼荼羅は、奈良の當麻寺にあるもの（国宝）が有名で、様式的に當麻曼荼羅と呼ばれることもありますが、内容は浄土三部経の『観無量寿経』で説かれる内容を忠実に描いたものです。当山所蔵のものは、江戸時代の写しのようですが、大変丁寧な仕上げのものだそうです。九月の施餓鬼会で開帳予定です。

本堂の階段に手すりをつけました。下駄箱、簀の子も準備中です。本堂への往復が多少でも楽になればと思います。

長年お寺に貢献された由木重子奥様が二月に亡くなり、はや四ヶ月が経ちました。葬儀に参列、弔意を頂きました皆様に改めて御礼申し上げます。果たされていた役割を埋めるのは簡単ではありませんが、山内一同精進して頑張りたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。

古佛眼山　龍蔵寺
電　話：〒三四七－〇〇六八
埼玉県加須市大門町一八－五一
寺務所：午前九時～午後四時
電　話：〇四八〇－六一－〇八五〇
Ｆａｘ：〇四八〇－六二－七九〇〇
会　館：〇四八〇－六一－〇八九二
メール：info@ryuzoji.jp
Ｗｅｂ：www.ryuzoji.jp

※ホームページのブログを再録したものです

お彼岸と春分

中国で浄土教を大成した、善導大師は、その著作のなかで、西方極楽浄土への往生を願うには、真西に日が沈む、春分・秋分の日が最もふさわしいとして、真西に沈む夕日を眺めながら、西方極楽浄土、つまり向こう岸である彼岸を思い、お念仏を唱え、瞑想することを勧めました。

このことが日本に伝わり、日本では春分・秋分の日が、お彼岸と呼ばれるようになり、特に仏道修行に励む期間とされるようになりました。これが庶民に広がるにつれ、ご先祖様、そして生きとし生けるものを慈しむ日として定着したわけです。

この夕日を眺めての瞑想を「日想観」と言います。余談ですが、私が育った大阪の一心寺は、法然上人と後白河法皇が日想観を修したことを縁起としています。当時は海辺で夕日は海に沈んだようですが、現在はすっかり町中で、海だったところには動物園が広がり、目の前には通天閣がそびえていました。それでも夕日の大変美しいところですので、機会ありましたら是非ご参拝ください。

（令和五年三月四日）

二種回向

「二種の廻向あり　一つには往相　二つには還相なり。」という親鸞聖人のお言葉があります。元は曇鸞の「論註」ですが、浄土真宗を特徴付ける教えとして大変重視されています。

廻向とは利他の行、すなわち全ての衆生に利益を与え、悟りに導く行いです。その廻向も往相と還相に二種に分類できるとし、次のように解説しています。

往相は、自分の功徳をもって全ての人の往生を願うこと、つまり現世での廻向です。一方還相は、極楽浄土での修行の成功後に、この世に戻って人々を救うことです。阿弥陀様の教えは、単に現世を脱しにあの世に往生しようと願うだけではない、往生の後には再びこの世に戻って人々を救う、共に生きることができるという希望があったわけです。親鸞聖人はこのいずれもが、阿弥陀様の本願による計らいであるとし、自力を排し、他力を強調した信仰を説かれました。このような考えが、当時の人々の心を捉え、その後の浄土真宗の大発展につながりました。

龍蔵寺のご本尊様は、親鸞聖人の三十三回忌の記念として造立されました。この地においてもそのような信仰の流れがあり、その流れのなかで、龍蔵寺のご本尊様が人々の願いや祈りを集め、作られたものであることに、思いを寄せたいものです。

（令和五年四月五日）

今を生きる

新年や新年度を迎えますと、今年はあれをしようこれをしようと、気持ちも新たに計画を立てますが、その通り実行できる人は稀なように思います。しかもあれをしよう、これをしようと計画を立てたばかりに、あれもできなかった、これもまだできていないと、不甲斐ない自分が腹立たしくなります。

お釈迦様は、そんな事をするなと正反対のことを仰っています。

過去のことに心煩わされず
未来のことに悶々としたりしない。
今を生きろ！

（サンユッタ・ニカーヤ）

過去を変えることはできず、過去によって幸せになることはできません。未来も未だ来ず。未来も自分を幸せにはしてくれません。私たちはただ現在、今のみを変えることができます。

今が幸せだと思うことができれば、どんなに苦しい状況でも人は幸せになることができますし、今できる良い行いを実践すれば、それは未来に良い結果として実を結びます。

今日、今、生きているこの瞬間こそが、自分自身を幸せにすることができる。そしてその今を精一杯生きよ。釈尊はそう教えています。

（令和五年五月七日）

宝行樹苑（仮）の整備

龍蔵寺南側の隣接地を購入し、樹木葬型の墓地整備を進めています。七月から工事を開始し十一月には完成予定です。檀信徒の家族のあり方も多様化し、昔の大家族制に合わせた墓のあり方だけでは、いろいろ不都合が出ることも多くなってきました。後継者がおられない方、夫婦だけで埋葬されたい方、長年共に暮らしたペットと一緒に埋葬されたい方など、多様な供養と追慕の形を考えていきたいと思います。この整備に合わせ、本堂の前の参道から当該敷地まで、墓地の通路を舗装する計画です。通路に面する墓地をご利用されている檀信徒の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご容赦ください。

お寺からのお知らせ

お寺でワークショップ『匂い袋』

自分好みの「匂い袋」を調合しませんか？　お子様連れも大歓迎です。先着二十名。材料費三千円（二つ分）。メールか電話でお申込ください。八月五日　十四時半開始。夏休みの思い出に。

複数の香木を調合して自分好みの香の配合を作り、袋に詰めます。お子様連れの場合は、親子で二つとなります。最後に一つまみ本堂で焼香して終了。

お念仏の会　テンプルモーニング

毎月第一日曜日、朝の七時からお念仏とお掃除の会を開いています。月初めの朝を心清らかに始めませんか。令和五年の予定は次の通りです。

一月八日（日）、二月五日（日）、
三月五日（日）、四月二日（日）
五月七日(日　はなまつり前日)
六月四日（日）
七月二日（日　十四時　新盆法要）
八月六日（日）、九月三日（日）
十月一日（日）
十一月五日（日）
十二月三日（日）

行事・法要

一月一日　元日会（十時）
三月十八日～二十四日　春のお彼岸
五月八日　誕仏会（はなまつり）
七月二日　新盆法要・盆施餓鬼木札
　　開眼法要（十四時）
八月一日～九月十五日
　　施餓鬼供養受付
九月十七日　施餓鬼法要（十四時）
九月二十日～二十六日　秋のお彼岸
十二月二十九日　餅つき正月準備
十二月三十一日　除夜会（十一時）

新規墓地のお求め

境内の整理で新しく造成した墓地を、ご希望の檀信徒・ご親戚にお分けしています。志三十万円から。

納骨堂（二十三夜堂）のご利用

境内にある二十三夜堂を納骨堂としてご利用いただけます。現在檀信徒でない方も、ご利用いただけます。詳しくはＨＰをご覧ください。一柱十万円。

写経・散華のご奉納の受付

本堂・ご自宅での写経を随時受け付けています。またご先祖様の菩提・家内繁栄を祈願して　倶会堂散華の祈願奉納をおすすめしています。お申し込みは寺務所にお立ち寄りよりしください。